

— 新潟医療福祉大学同窓会 —

伍桃だより

伍桃だよりの発行にあたって	2
学長からのメッセージ	2
大学だより	3
学科近況	5
卒業生だより	8
学友会だより	9
お知らせ	10

2007.11

第2号



シドニー五輪背泳ぎ銀メダリスト中村真衣さんと水泳部の交流（第7回伍桃祭において）

伍桃だよりの発刊にあたって

新潟医療福祉大学同窓会長 齊藤 公二



日頃より本同窓会に対しまして、ご理解・ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。こうして伍桃だよりの第2号を発刊できたこともひとえに皆様方のご協力の賜物と、重ねて厚く御礼申し上げます。会員の皆様方におかれましては、各方面でご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、私ども同窓会役員にも新しい仲間が加わり、心機一転3年目を迎え、動き出しております。任期満了を迎えた1期生におきましても、アドバイザーとして引き続き加わっていただいております。今年度の事業の内容につきましては、昨年同様、本伍桃だよりの同窓会誌「伍桃」を中心に情報の発信を主としており、出来る限り会員の皆様方にタイムリーな話題を提供できるようにと、役員一同活動させていただいております。

3期生の皆様は卒業してから半年、仕事に慣れて来ましてでしょうか。2期生の皆様は責任のある立場におかれている人たちもいることでしょうか。1期生におかれましては、さらなるチーム医療のステップアップをすべく、新たなフィールドへ進んでいるという話も多々耳にしております。

『3年は我慢』。在学中先生方からよく聞いた言葉です。その3年目に至りました1期生の皆様、今の心境はいかがでしょう。さらなるステップアップ・レベルアップを求め、新たなフィールドを模索していますか。それとも現在職場、分野においてさらに知識・技術を深めようとしていますでしょうか。私の友人においては、卒業後別の職に興味を示し、また新たな大学へ進学した人もいます。進むにも勉強、留まるにも勉強、それが社会へ出て実感していることと思います。

本会におきましても、周囲の皆様方にご協力をいただき、日々前へと進むべく努力をしております。本学東京キャンパスの設立を機に、同窓会首都圏支部の設立総会も11月末に予定をしております。首都圏近郊の皆様のもとへはご案内が届くことと思います。ぜひその時にはお誘い合わせのうえご出席していただければと思います。

皆様のご活躍、そして本学ならびに本会の成長を、同窓会を通じより伝えていければと考えております。同窓会からのご連絡が行きました際にはご協力お願い致します。また、本学卒業生の情報がありましたら、同窓会、または同窓会役員へご連絡いただけたら幸いです。

学長からのメッセージ

卒業生の皆さんへ

新潟医療福祉大学長 高橋 榮明



新潟医療福祉大学の卒業生の皆さん、全国各地・新潟県内でご活躍のこととお慶び申し上げます。母校を離れて現場での活躍は、新しいチャレンジで、緊張しながら、そして楽しみながら勤務していると思います。母校の近況をお知らせいたします。

平成19年4月から、新潟医療福祉大学は、3学部8学科体制となりました。「医療技術学部」には新しく「義肢装具自立支援学科」が本年4月から開設され、そして新しい学部「健康科学部」が出来、「健康栄養学科」「健康スポーツ学科」そして昨年度新設された「看護学科」が加わりました。そして「社会福祉学部」には、「介護福祉コース」を含めた「社会福祉学科」から成り立っています。

さて、現在は同窓会には開学時からの5学科がありますが、将来は8学科からの卒業生の同窓会となります。そうすると本学の同窓会は各学科同窓会があり、それに加えて横断的な連合同窓会から構成されます。

連合同窓会は、各都道府県単位、或いは数県にまたがる広域の同窓会から構成され、それを支部同窓会と呼びたいと思います。去る11月23日に東京キャンパスで首都圏同窓会（第1回同窓会首都圏支部総会）として開催されました。東京キャンパスのことはご存知ですか。東京駅日本橋口の35階建てJRサピアタワー10階にあります。

小さな50坪程度のスペースですが、近くには多数の大きな有名大学の東京キャンパスがあります。そこには新潟医療福祉大学と共に、同一法人の事業創造大学院大学の名称が表示して看板があります。

首都圏同窓会は、今回、社会福祉学部1期生の原 隆祥君が支部長となりました。連絡が十分でなかったためか、丸田先生と私とを含め約10名が集まりました。今後そこに多数の卒業生に集まっていただき、年1回の会合を開きたいと考えております。

このような支部同窓会は、連合同窓会の一部として各地で時々開催して良いかと思います。卒業生が一人いれば、そこは支部があることになり、新潟地区の連合同窓会は新潟医療福祉学会の当日に開催しますが、この会で皆さんの経験などを発表してください。そして各学科の学会が全国各地で開かれた時に、そこに支部同窓会を開催して学会に参加している教員の皆さんから大学の近況、そして皆さんの近況をそこで相互に語り合い、この「伍桃だよりに」に掲載していただきたいと思います。

さて今日は、各学科へ同窓会、そして連合同窓会、その一部である首都圏同窓会のことをお話しました。皆さん是非、近況をお知らせください。

大学だより

健康科学の教育・研究の連携を 目指して

健康科学部長 渋谷 優子



本学は今年度より3学部体制となり、医療技術学部、社会福祉学部、健康科学部に位置づいた。少子高齢化社会に対する要請も鑑み、健康科学部は健康栄養学科、健康スポーツ学科、看護学科の構成となり、健康科学部になることで、本学の保健・医療・福祉の連携教育がより一層確実に発展することを目指し、栄養・スポーツ・看護の視点から教育や研究、実践を通して健康科学を構築し支援法の開発を図り、卒後の活躍において、地域の子どもから高齢者の健康生活を支援するためのヘルスプロモーションを担える人材を育成できるようにしたいと考えます。3学科には発達・教育・対象者において共通する構成概念があり、今後教員、学生の連携や交流が広がればと考えます。3学科共通する教職課程は今後連携を推進できる有効な一つです。今回看護学科主催の第7回新潟医療福祉学会のプログラムでは5つの交流セッションを設けその一つの試みとして、課題「子どもの発達と健康科学—体育・食育・生育の立場から」を実施し、話題提供を体育は健康スポーツ学科（石川知志先生）、健康栄養学科（塚原典子先生）、看護学科（岩田みどり先生）からいただいた。石川先生から子どものスポーツ障害について、塚原先生から子どもの食事内容の大切さ、栄養成分カルシウム、岩田先生から子どもの安全について、事故と安全教育の話題をいただき各専門からの現実の話題を、子どもの特性、発達、教育の共通の基盤で考える機会になったことは大変意義深いことであり、このような連携教育や研究、実践から深められる教育体制や環境が今後整備、発展できるよう微力ながら努力していきたい。

学科長に就任して

理学療法学科長 大西 秀明



新潟医療福祉大学理学療法学科卒業生の皆さん、ますますご活躍されていることとお喜び申し上げます。

私、平成19年4月から学科長に就任いたしました。開学から7年目を向かえ、黒川前学科長から大役を引き次ぐことになりました。他大学と比較して、やや過保護と言われながらも長期的にみて学生にとって最善の方法は何かということを考えて学科運営をしていきたいと思っています。ただし、社会にでてから打たれ弱い人間にならないよう

に、自ら考え、自らの責任で行動できる人間に育って欲しいと思っています。

皆さん、既に理学療法士として対象者に最善の治療やサービスを提供していることと思います。教え子が立派に育つことは本当に嬉しいものです。今は目の前の業務遂行に全神経を集中させている時期だと思いますが、少しずつ視野を広げて事象をみるように心がけてください。理学療法の分野だけで通用するような考え方で満足しては困ります。社会全体を見回して、政治や経済の動向にも注視し、これからの医療・福祉の方向を捉え、長期にわたって何をするべきかを考えて行動するようにしてください。

もう一つ、皆さんにお願いがあります。一期生の皆さんは既に3年目に突入しています。そろそろ臨床実習指導者になれる時期になりました。皆さんが学生の時には、縁もゆかりもない臨床現場の先生方が善意で皆さんの臨床実習教育を引き受けてくれました。既にPTとして働いている者は、皆、先輩達にお世話になっていますので、同職種の後輩を教育するという事は当然の業務だと思います。しかし、昨今の社会情勢を考えますと臨床現場での時間的制約が強く、なかなか善意だけでは後輩を指導しにくい環境であることは十分に推察できます。そこで、理学療法の後輩というだけでなく、母校の後輩達の指導ということで、皆さんには積極的に臨床実習生を引き受けて頂きたいと思います。実習指導は通常業務に加えての余分な仕事になりますので、なかなか受けたくないかもしれませんが、学生を指導するということは必ず皆さんに良い効果をもたらします。今度は皆さんが後輩達の教育を行う番なのです。是非とも宜しくお願いします。

学科長に就任して

作業療法学科長 大山 峰生



作業療法学科卒業生の皆さん、お元気で御活躍のことと存じます。

本学作業療法学科は今年の4月で満7年となりました。お蔭様で3期生までが卒業し、136名の作業療法士が誕生しました。本学科がここまで来られましたの

は、それぞれの年度で卒業された皆様が大学での勉学を全うして作業療法士の資格を取得され、それぞれの施設で懸命に励んでおられる年々の積み重ねによるものと存じております。心より御礼申し上げます。

私は、二代目学科長の岩崎テル子先生の後を引き継ぎ、平成19年4月から学科長を務めております。これまで岩崎先生には、学科運営から教育に関して本学科が発展するための土台の構築、大学院の創設において多大なる御尽力を賜りました。従いまして今後は、学部教育の更なる充実と学科業務の効率性の向上、大学院教育および研究の発展を目標に上げ、現状に甘んじることなく少しずつでも前進し、新たな伝統を築きたいと思っています。大学院においては、本年度には修士課程に加え博

士後期課程が開設されました。臨床で生じた問題の解明のために是非大学院にご入学くださり、作業療法技術の発展に向け、皆さんと共に研究できますことを願っております。

今後も、卒業生皆様の母校への思いを裏切らないよう我が新潟医療福祉大学の誇れる作業療法学科を築き、日本全国から注目される作業療法学科に発展するよう邁進してまいります。今後とも、本作業療法学科に御指導、御鞭撻賜りますよう心よりお願い申し上げます。皆様のますますのご活躍を祈念しております。

同窓会の皆さんへのメッセージ

言語聴覚学科長 渋谷 直樹



今年度で第1期の卒業生もすでに3年の臨床経験を積んだことになり、仕事の楽しさと責任を感じながら日々頑張っていることと思います。卒業生の中には早くも部門の責任者として活躍している人もいと聞いております。言語聴覚士の需要は増加しており、求められる資質のレベルも年々高くなっていますから、これからも自己研鑽に励んでいくことを期待しています。

言語聴覚士の養成校が増え続ける中で、各養成校の教員による連絡協議会が数年前に結成され、研修会を開催するなど活動しています。教員も学術的活動のみならず、職務上求められる資質の向上のため機会を捉えては研鑽を積むよう努力しています。言語聴覚士養成の歴史はまだ浅いため、各校に共通している問題が数多くあります。特に臨床実習と卒後教育では今後多くの課題を残しており、これからは同窓生の皆さんの協力が不可欠だと思います。一緒に協同しながら解決していきたいと思ひます。このように、皆さんにも後輩を育てていくという役割がありますので、その責務を果たせるようこれからも機会を捉えて研鑽の場に参加してみてください。

学術集会、研修会、勉強会などへの参加はそのよい機会ですが、臨床経験を積んでいく中で興味をもったテーマについてさらに探求するために大学院で研究する道も開かれています。将来の目標を考える際にひとつの選択肢として検討してみるのはいかがでしょうか。

これからも、皆さんの健康と活躍を祈念いたします。

健康スポーツ学科長に就任して

健康スポーツ学科長 和唐 正勝



健康スポーツ学科は平成17年に新設されました。在学生の最高学年が3年生という若い学科です。また新たに、本年度から大学院医療福祉学研究科に健康科学専攻修士課程健康スポーツ学分野と博士後期課程が設置されました。

本学科は、運動やスポーツを通して、人々が生涯にわたり豊かで健康的な生活が送れるよう支援できる、専門的な知識と技能に裏付けられた実践的な能力を持つ人材の育成をめざしています。このため、学科の専門内容は、スポーツ医科学、スポーツマネジメント、スポーツ教育の3領域より幅広く構成され、学ぶ人のニーズに応じて学ぶことができるようになっています。

在学生は、将来の中学校や高等学校の保健体育教師をめざす者、保健・医療の側面から健康運動実践指導者をめざす者、さらに、地域のスポーツクラブや広域スポーツセンターのスポーツ指導者や、スポーツ選手の健康管理などを行うアスレティックトレーナーをめざす者等など、運動やスポーツを通して多様な側面から人々のQOL向上に貢献できることをめざして学んでいます。

再来年の春（平成21年3月）には、第1期の卒業生を送り出す予定です。先に社会に巣立られた同窓生の皆様方の、暖かいご支援とご指導をお願い申し上げます。

学科長就任にあたって

義肢装具自立支援学科長 江原 義弘



1期生、2期生、3期生の皆さんが卒業したときには理学療法学科で基礎運動学などを担当していた江原です。県外で学会があったさいに卒業生の皆さんから声をかけてもらえて嬉しかったです。皆さんが社会の最前線に出て活躍しているのを感じられたからです。さて本年の4月に義肢装具自立支援学科が開設され私は新学科に移りました。理学療法学科の4期生の卒業研究も担当しながら、新学科の新生（7期生）に代数学・幾何学・力学を教えています。E棟の裏に立派でびかびかのI棟が建設され、そこに新学科の工作機械群や教員の研究室があります。この場所は新学科の1年生のたまり場となっているだけでなく、理学療法学科の卒研生たちや大学院修士課程の学生さんもやって来ます。このようにして自然に「職種間の連携」が根を下ろしていくんだと実感しています。私が顧問をしているバイコン倶楽部にも作業療法学科や健康スポーツ学科、義肢装具自立支援学科の学生さん達も入部して、職種間の連携、学年間の連携もできてきました。OB向けにはバイコン道場もあるし、在校生へのアドバイスも兼ねて是非お立ち寄りください。

新学科のモットーは学生達が勉強をするのが楽しくてたまらない環境を作っていくことです。3年後には新学科からも意欲にあふれた卒業生が社会に出て行きます。そのときは、皆さん、仲間に入れてあげてください。

学科長就任にあたって

社会福祉学科長 丸田 秋男



平成19年4月1日から社会福祉学科長に就任いたしました。

これまでは、米林学部長並びに塩見学科長に甘えて、マイペースで学生教育や地域貢献等に取り組んできましたが、新たな職責を与えられ緊張した日々を過ご

しております。

学科の近況については、合同研究室から報告しますが、就職及び国家試験においては全国トップレベルの実績を上げることができました。これも卒業生の皆さんが在学中に範を示していただいた力によるものと感謝しております。

本学科の卒業生が保健・医療・福祉等の現場で活躍し

始めてから僅か3年ですが、ソーシャルワーク専門職をめぐる社会情勢は、社会福祉士及び介護福祉士法の改正等により大きな変化が到来する状況にあります。

その一端として、卒業生からは、県・市の福祉行政機関や総合病院等の医療機関、地域包括支援センター、障害者就業・生活支援センター等におけるソーシャルワーカーとして重要な役割を担いつつあるとの報告を受けております。

卒業生が、それぞれの職場において利用者様や患者様はもとより他の専門職等から信頼され、組織において責任と役割を与えられることで大きく成長していくことは大きな喜びです。

学科長の職責においては、学生教育及び研究指導等の更なる充実を図り、揺るぎない実績づくりに努めていきたいと思っておりますので、皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

学 科 近 況

理学療法学科近況

理学療法学科准教授 相馬 俊雄

卒業生の皆さん、こんにちは。充実感を持って働いていますか？

さて、新カリキュラムがスタートし、5期生から学生数が100名になりました。実習・演習のやり方にも、これまでとは違い創意工夫を凝らしています。学内で行う演習（実技）では、4グループ（25名ずつ）で、細部にまで目が行き届くように配慮しています。学外の実習では、これまで1年生に行っていた見学実習をなくし、2年生に臨床実習Ⅰ（検査測定実習）を企画致しました。内容は、見学実習的な要素が半分、検査測定の実践が半分か含まれています。3・4年生で行う臨床実習Ⅱ・Ⅲ（評価・総合実習）では、現在、受け入れ先の実習施設の絶対数確保が困難になってきている状況です。そこで、向上心を持っている皆さんにお願いがあります。学習する最善の手段は、「教えること」です。皆さんが後輩の指導をすることで、自分自身の学習効果を高めていって下さい。そして、理学療法の素晴らしさや魅力を、是非、実習で後輩に教えていって下さい。在学生は、先輩である皆さんが、実習で理学療法を行っている姿を非常に強く印象付けることと思います。学生の時に実習で得た経験は、将来働いていく時の基盤になっていきます。可愛い後輩たちを自分の働く職場に温かく迎えて下さい。よろしく願います。

さて、我々教員は、皆さんの頑張っている姿を実習訪問先で見ることが楽しみでもあり、励みでもあります。今後も理学療法の魅力をさらに満喫していって下さい。

作業療法学科だより

作業療法学科准教授 濱口 豊太

新潟では冬の支度が始まりました。この朝夕の冷たさは九州育ちの私に大陸からの厳しい北風を予感させます。同窓生の皆さんにおかれましては充実した日々を過ごしていることと拝察いたします。

作業療法学科では8月に開催した「運動器リハビリテーション科学研究会」に引き続き、来年3月22日（土）と23日（日）に本学で開催される「日本リハビリテーション連携科学学会」の事務局をいたしております。皆さんも臨床では医療チームの一員として活躍されていることと思います。時間をみつけて大学に来て先輩の臨床や研究のアイデアを参考にしてみたいはかがでしょうか。参加登録などの情報は、大学HPのトピックス11月の欄、日本リハビリテーション連携科学学会のHPにあります。

寒くなってくると、大学の中庭にできる朝水を思い出します。国家試験の模試が始まると、朝、誰もさわっていない薄水を踏む楽しみがあります。試験直前だった同窓生の皆さんにとってはそんな情緒の思い出がありますでしょうか。ほんのちょっとした心の余裕を持つことは、試験に平常心でむかうことに役立ちそうですが、果たして今年の4年生はどうでしょう。機会があれば大学に来て後輩の指導にもご協力ください。

2年生の治療学が始まったら後期、3年生が評価実習から帰ってきたら冬。冬が始まったら国試対策。国試が終わったら温泉。卒業生の合格を確認したら新1年生が目の前にいて4年生は総合実習。

冬来たりなば春遠からじ。冬をどう過ごすかで次の1年が決まってくるようにも思います。皆さん、どうか寒い冬を元気に過ごし、春、2008年3月22～23日には本学へ集合してください。

言語聴覚学科近況

言語聴覚学科長 渋谷 直樹

言語聴覚学科は今年度で4回目の卒業生を送り出すことになりました。ようやく最終学年生を4回経験し、教員も職務に慣れてきたように思います。余裕があるわけではありませんが、落ち着きを取り戻しているところといます。では、近況をお知らせします。

今年の3月末で市島民子教授が、5月末で石本豪助手が転任しました。亀田和夫特任教授は前期で講義担当を終了しました。一方、4月からは渡辺眞澄講師、渡辺時生助教が着任しました。他の教員の皆さんは今までどおり元気にしております。今後教員の需要は高まると思いますので、教員という将来像を思い描く卒業生が現れることを期待しています。

今年度の末（来年3月）に山岸達弥准教授が引率者になり、米国ボストン市に2、3年生の希望者を募って短期研修旅行に出かけます。本学科としては最初の企画ですが、今その準備に追われているところです。この研修旅行の経験が学生の視野を広げることになり、言語聴覚士をめざしてさらに勉学に励む原動力になることが期待されます。詳細は後日報告できるとしますので楽しみにしてください。在校生は卒業研究も終了を迎え、就職活動も順調に進んでいます。後は国試を頑張るだけ！

実際に臨床に就くとまだまだ知識・経験不足を感じていることと思います。失敗もたくさんしたことと思います。そうした経験を肥やしにして、これからも楽しい仕事ができるよう成長してください。大学にも是非相談したり遊びに来たりしてください。待っています。

義肢装具自立支援学科の近況

義肢装具自立支援学科准教授 阿部 薫

卒業生の皆様お元気ででしょうか。皆様が卒業されてから新しい学科が誕生しています。医療技術学部の4番目の学科として、2007年4月に義肢装具自立支援学科が開設されました。他学科同様、医療職の受験資格を取得するための学科で、本学科は義肢装具士の養成が目的です。

ずいぶん長い学科名だと思われることでしょう。この長い学科名にはさまざまな思いが込められているのです。従来、義肢装具士の活動フィールドは義肢装具製作所や一部のリハセンター／病院などが主たるものでした。しかし急速な高齢化やノーモライゼーションを目指す社会的な流れを受けて、「福祉機器・福祉用具の知識と技術を合わせもつ義肢装具士の養成」をコンセプトに据え、義肢装具を含めた広い意味でのデバイスをもって、援助を必要とする人々の自立を支援する人材の育成を目標とし、新しいタイプの義肢装具士を目指すため、このような長い学科名になったという経緯があります。校舎としては、テニスコート近くに第5研究棟が新しく建設され、ここが本拠地となっています。

現在47名の第一期生が日々勉学に励んでおり、同時に

教員一期生も張り切ってがんばっております。これから臨床実習や現場指導などでお世話になることも多くなるかと存じますが、その節には後輩たちを可愛がってあげてください。もし大学に来られることがあれば、ぜひ第5研究棟にもお立ち寄り下さい。心より歓迎致します。

健康栄養学科の近況

健康栄養学科長 斎藤トシ子

仕事、子育て、大学院等様々な生活をしている142名の卒業生の皆様、お元気ですか？ いきなり私事の話で恐縮ですが、最近、何名かの卒業生の職場に行く機会がありました。驚かせたいという目的もあり、卒業生には事前連絡をせず突然訪問してみましたが、皆、元気に活躍していて、とても嬉しい気持ちになりました。突然の訪問で驚かせた皆様、ごめんなさい。でも、皆さんの驚く顔を見るのが少し楽しくなりましたので、また何方かの勤務先に突如出だし、隅のほうから仕事ぶりを拝見させていただくかもしれません。熱い視線を感じたら私かもしれませんのでよろしく。子育て中の方については、こちらからの訪問は困難なので、是非近況をお知らせください。

さて、本題（学科の近況）です。お聞き及びのことと思いますが、大学は今年度から医療技術学部、健康科学部、社会福祉学部の3学部体制になり、健康栄養学科は健康科学部に所属することになりました。卒業生からは、学部の名称が変わって寂しいという声が届いていますが、学科の体制は変わっていませんのでご安心ください。教員の人事については、今年の4月に大島一郎助手と萬羽郁子助手が赴任され、3月末をもって、森田牧朗教授と藤岡由美子助手が退職されました。森田先生は定年退職後も東京で食品学の研究をお続けになり、藤岡先生は、新天地の松本大学でご活躍されています。勿論、現職教員も皆、元気に頑張っていますし、現役学生も先輩に追いつきたいと頑張っています。学科のトビックスがホームページに載っていますので是非ご覧になり、学科の動向を見守っていただければと思います。

健康スポーツ学科近況

健康スポーツ学科准教授 西原 康行

平成17年に新設された健康スポーツ学科も、早いもので3年が経過しました。現在3学年までそろい、学科の全学生数は、265名になりました。3年前に入学してきた健康スポーツ学科1期生は、専門科目の履修や現場実習を経て、専門的な力量がついてきているとともに、社会性も身についてきています。また、2年生、1年生も先輩であり、学科の開拓者である3年生に導かれながら、徐々に力をつけています。今年度は、英語スピーチコンテストで健康スポーツ学科の学生が2名（全学で4名）入賞したり、学友会の会長を務めるなど、全学の中

でも活躍する機会が増えています。大学院修士課程と博士後期課程も本年度から設置され、修士課程1名（社会人）、博士後期課程1名の学生が午後6時以降の夜間大学院で学んでいます。

健康スポーツ学科の学生が多く入っている強化部も活躍しており、水泳部は日本ランキング4位、5位（世界ランキング33位、36位）の学生を輩出しています。バスケットボール部は、女子が北信越学生選手権大会で優勝して、今年も全国学生選手権大会（インカレ）出場を果たし、インカレ常連校の地位を不動にしています。サッカー部も、北信越学生リーグで1部の地位を不動のものにして、今年度は2位に浮上しています。

平成21年度には、バスケットボールコート2面、トレーニングセンター、屋内ランニングコースを完備した第3体育館が計画されており、より充実した学習環境が整う予定です。

同窓生の方々には、今後も暖かく見守っていただき、ご支援、ご鞭撻をいただければ幸いです。

看護学科近況

—自らの体験学習からの成果—

看護学科長 渋谷 優子

看護学科は今年度開設2年目を迎えた。教員は32名（教養教育・看護教員）となり教育体制と教育環境の充実を図る必要がある。学生は1年生と2年生になり学年のカラーが出て活発になった。1年生の基礎看護学技術演習では、フィジカルアセスメント（身体観察法）が始まりPBL（Problem Based Learning）による少人数制のグループで主体的、問題解決学習を行い、6月にはフィールド体験実習を実施した。学生が直接病院の患者さんや看護師の仕事を見学し、地域の老人クラブを訪問し実際に多くの学びをし早期の学習動機になった。2年生は、専門看護学が増えており、PBLの授業は各専門領域のケース事例による問題解決法を討議し合った。実習では、1年後期の基礎看護学Ⅰに続き9月に2週間の基礎看護学実習Ⅱを実習病院で受け持ち、患者さんに看護計画を立て実習した。学んだことを実際の場面で活用し体で学ぶことで本当に理解が深まることを実感し、実習の重要性が分かってきた。選択科目ではあるが、国際看護論を受講した8名の学生は体験学習として8月の3週間をオーストラリアのモナッシュ大学で学び、ホームステイの日常生活と家族との交流を通し国際的視野と文化を大いに学び、卒業後国際活動をしたいなどの意欲にもつながっている。

今年度大学院修士課程が開設し看護学分野では、母子看護学とがん看護学が認定されて院生は4名が入学された。院生はがん専門看護師希望、修士課程で学びたいなどの目的に向かい、大変熱心で学習意欲に燃えて励んでおり頼もしく、これからを期待している。

社会福祉学科近況

社会福祉学科合同研究室

卒業生の皆さま、お元気でしょうか。今回は合同研究室より、社会福祉学科の近況をお知らせいたします。

よい大学には、様々な要素があると思いますが、まずは就職率ですが本大学の社会福祉学科は、『週刊東洋経済2007.10.13』の「特集／本当に強い大学2007」に掲載され、就職率97.6%で全国の文系大学ベスト100の第2位にランクされました。また、新潟県でいえば、本学科卒業生が本大学で初めて新潟県福祉行政職（上級職）の合格者第1号となりました。

例年、高い合格率を出している社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験については、どちらも、2005年度より2006年度の全国の合格率が下がったなか、本大学の社会福祉学科の合格率は上昇し、社会福祉士が62.5%（全国27.4%）、精神保健福祉士が87.5%（全国60.3%）でした。社会福祉士は、全国の受験者数100人以上の大規模な大学51校中、第2位でした。精神保健福祉士については、全国120校の精神保健福祉士養成大学中、既卒者を含めた順位は第7位の合格率で、どちらも素晴らしい結果となりました。このように、本大学の社会福祉学科は就職率、国家試験の合格率においても、全国に名立たる大学となっております。

大学構内においては、今年度から新たに完成した第3厚生棟の使用が開始され、社会福祉学科の学生も、新しい食堂で食事をとったり講義を受けたりと、ますます充実した設備のなかで、勉学に励んでおります。また、大学院では医療福祉学研究科博士後期課程がスタートしました。

卒業生の皆さまのご活躍も、各方面から聞こえて参りますが、教員にとりましては皆さまの生の声が一番です。是非、在校生や教員の顔を見に、大学へ足をお運び下さい。お待ちしております。



社会福祉学科 現場実習報告会

卒業生だより

小山内 良太

(相澤病院総合リハビリテーションセンター／
理学療法学科卒業)

気が付いたら就職してもう6ヶ月以上が過ぎていた…。というのが今の自分の正直なところ。臨床で働くことで、多くのことを学びました。しかし、「これには100%の自信がある」というものはまだ数少ないのが現状です。仕事に慣れてはきましたが日々仕事をこなすのではなく、この1年、この1ヶ月、この1日で何を学んだのか、あとから自信を持って言えるように仕事をしていきたいと思っています。仕事はとても楽しいです！

澤井 倫典

(障害者更生施設アドバンテージあさひ／作業療法学科卒業)

私は現在、山梨県にある「障害者更生施設アドバンテージあさひ」で働いています。「障害者更生施設」とは病院と地域の中間施設で、病院から退院してからもリハビリテーションを継続して受けた方や、在宅復帰するのに家庭環境の整備が必要な方などが主に利用されています。仕事は利用者と地域を結びつける仕事であるためやり甲斐を感じて日々仕事をしています。しかし、利用者の地域移行へのモチベーションを保つ事が大変で日々苦心していますが、利用者を第一に考え頑張っています。

宮原 梨恵

(桔梗ヶ原病院／言語聴覚学科卒業)

私が言語聴覚士として働き始めてから、半年が過ぎました。私が働く病院には回復期病棟があり、そこで主に成人の言語障害・嚥下障害の方のリハビリを行っています。そこでは、リハビリ以外の職種との情報交換も積極的に行っているため、患者様のことを多方面から考えることができます。まだ、毎日が試行錯誤ですが、STの先輩方や他職種から様々なことを学び、STとして自分を日々成長させていきたいと思っています。

島田 奈央

(健康栄養学科卒業)

私は今横浜市内にある大学病院で働いています。患者さんの疾患の種類も幅広く、栄養士も業務を行なうにあたり幅広い知識や経験に基づく臨機応変な対応が求められるのですが、まだまだ1年生の私は、毎日ただ目の前にある業務を消化していくことで精一杯です。また、大学を卒業するまでずっと新潟で住んできたので、仕事はもちろん慣れない横浜での一人暮らしにへこたれそうになることもあります。職場の先輩や友達、家族に支えてもらってがんばっています！

阿部 佳正

(社会福祉学科卒業)

早いもので私が福祉の現場で働き7ヶ月が過ぎました。私は長野県にある児童養護施設で児童指導員として働いています。働いていると大学で学んだことが現場でより具体的、実践的にみえてきました。児童養護施設の現場にも知的障害児、発達障害、精神に障害が生じている児童が非常に多かったり、子どもの家庭では生活保護などの社会保障を利用している家庭があまりにも多いからです。子どもとの直接的な関わりはもちろん、児童相談所等との連携は不可欠です。それらは勤務の中だけでは十分にはこなせないのもそういう意味でも福祉の独特な勤務を感じます。子どもは一人一人違い私たちの対応ももちろん一つではありません。子どもの心の傷に寄り添いサポートしていくことは非常に大変です。そのためには自分に余裕を持てることが重要だと思います。日々の自分の体調管理が大きく子どもに影響することを忘れず、これからも子ども達の生活に寄り添いたいと思います。



新潟医療福祉大学同窓会 首都圏支部設立総会
(11.23 東京キャンパスにおいて)

学友会だより

学友会活動紹介～伍桃祭実行委員会～

学生委員会 学友会顧問 秋山 隆之

平成19年10月30日（火）管理棟2階会議室、安堵感漂う雰囲気の中、伍桃祭実行委員にとって最後の仕事である反省会が終わった。各学科51名で構成する実行委員は「最初はうまくいか不安だった」（理学療法学科2年）、「何とかなる！」（社会福祉学科2年）と6月中旬の活動当初を振り返った…

第7回を迎える『伍桃祭』は、“光 8色の虹=∞のかけはし”をテーマに、平成19年10月6日（土）・7日（日）の日程で開催された。晴天にも恵まれ、本学学生、教職員はもちろんのこと、地域の方々も多数来校された。

「オリンピック銀メダリストの中村 真衣さんの泳ぎは、地域の人も喜んでくれた」（社会福祉学科2年）とイベント担当が言えば、「Tシャツを買って行ってくれた人がいて嬉しかった！」とTシャツ製作担当は来校された地域の方々に感謝した。

伍桃祭準備での苦労を振り返ると？「毎日時間に追われる感じがして作業を進めた」（社会福祉学科2年）、「仕事がゴチャゴチャになった」（社会福祉学科2年）、「忙しくて寝る時間が欲しかった」（社会福祉学科2年）と授業や実習の合間の限られた時間での準備の難しさを嘆いた。一方、「ラジオ局のスタジオに入れて貴重な体験だった」（理学療法学科2年）とは広報担当。伍桃祭PRのため各地を駆け回った。「でも、事務局の方との打合せの時がとても緊張したよね」、「大人の世界という感じで…」（社会福祉学科2年）と委員長を中心としたメンバーは感じていた。幾度と事務局の方と打合せを開いた。学生の視点と、大学側の視点をすり合わせるために活発な意見交換が行われた。学生は自分たちがやりたい

ことを主張し、事務局の方は学生の自発性を失わないように配慮しながら、学生の手が届かない所を補助、指導した。「委員の仲間意識が増した」（社会福祉学科2年）と学生の絆が強まった。

これからの伍桃祭はどうあるべき？と尋ねると、「またビックなゲストを呼びたい！」（社会福祉学科2年）と第一声。「大学全体でもっともっと盛り上げたい」（理学療法学科2年）「先生方ももっと参加して欲しい」（社会福祉学科2年）「3・4年生やOB・OGも来て欲しい」（理学療法学科2年）と願う。「出会い」を大切にする伍桃祭は、学生や教職員、構内だけでなく、地域の方々やゲスト出演の方々の出会いを大切にしていこう姿勢が引き継がれている。その出会いをさらにたくさんの人へと繋ぐ意欲が、素晴らしい8色の虹のかけはしを創りあげた。

第7回 伍桃祭テーマ「光」 8色の虹^{むげん}=∞のかけはし

今年からまた新たに1学科が増設され、8学科となった新潟医療福祉大学。

新たな学科が増えるということは、それぞれの学科が協力し1つとなることから学校生活がはじまると思います。虹もすべての色が1つとなることで作り上げられます。そこで、それぞれの学科が特徴を生かし、1つの大きな虹のようになりたいという願いをこめました。そして学科だけでなく、本学のサークルや部活動をはじめ、先生方、そして学校、また地域の方々とも1つとなり、昨年のテーマでもあった『キセキ』が益々素晴らしいものへと築きあげられてきました。今まで築きあげられたキセキが、これからもっと大きくなり、それが∞（無限）へと広がり、あらゆる『光』を放ち、輝く∞（無限）のかけはしになるようにという願いをこのテーマにこめました。

学園祭で行われるさまざまなイベントを通して全学科の協力を目指し、障がいを持っている人や地域の方が楽しめる学園祭にし、ここから新たな虹という大きなかけはしを創りあげていきたいです。（伍桃祭実行委員会）



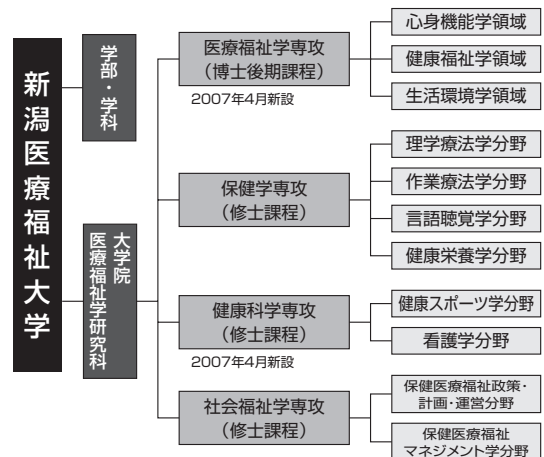
伍桃祭実行委員会

母校の大学院で学んでみませんか！

卒業生の皆さん、お元気ですか？ 早いもので本学も第3期の卒業生を送り出し、新潟県内外で多数の卒業生が職場でご活躍されていることと思います。

さて本研究科においては、現場で必要とされる専門知識をさらに高めて、臨床・実践・管理・計画策定等の面でリーダーシップを発揮できる保健・医療・福祉分野のエキスパートを目指す方や、教育職・研究職を目指す方を応援します。大学院生の中には、大学近郊にお住まいの方はもちろん、故郷での就職後、また学びたい意欲が湧き新潟の地へやってくる方、または県外から通学される方もいらっしゃいます。

新潟医療福祉大学院は学びたい意欲を持った皆さんをお待ちしています。



皆さんが入学する場合は、入学金が半額になります

- 1、 平日の授業は18時10分からスタートです。また土曜日の集中講義を利用できます。
 - 2、 長期履修制度を利用すると、4年をかけてゆっくり修了することも可能です。
 - 3、 各種奨学金を用意し、修学のバックアップをします。
 - 特別研究奨学金（年間15万円～20万円を支給 ※本学卒業生を対象）
 - 修学援助奨学金（2年次に15万円～20万円を支給）
 - 日本学生支援機構奨学金
（無利子奨学金月額8万8千円貸与、有利子奨学金月額5～13万円貸与）
- ※いずれも選考あり

新潟医療福祉大学 入試事務室

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL 025-257-4459 FAX 025-257-4456
E-mail : nyuusi@nuhw.ac.jp URL : <http://www.nuhw.ac.jp/>

編
集
後
記

今回の伍桃だよりはいかがだったでしょうか。本会は設立してもうすぐ4年目を迎えます。入学したばかりの1年生が大学を背負って立つ4年生へと進級していくように、本会も卒業生の皆様や教員・保護者・多くの方々に支えられながら、少しずつですが同窓会として基盤を確立しています。今後も基盤作りを進めていくと同時に同窓会としての活動を充実させていき、在学・卒業問わず会員相互の関係を深め、本学を盛り上げていけるような組織へと成長していきたいと考えています。

本会はこれから在学生の国家試験・卒業における活動を本格的に行なっていきます。大学生としての集大成ですので、出来るかぎりバックアップしていきたいと思いながら活動しています。(山口 正樹)

発行：新潟医療福祉大学同窓会